

# 卒業生の振り返り調査結果

平成 29 年 10 月 学長調査戦略室

## 調査方法

調査目的：卒業生の在学時及び卒業後の状況把握

実施日：平成 29 年 8 月 20 日

調査方法：卒業後 30 周年同窓会にて出席者に質問紙を配布し、各テーブルに設置された封筒にて回収を行った。

調査対象：卒業後 30 周年同窓会出席者（昭和 62 年 3 月卒業生）

集計人数：有効回答 215（対象者：231 名 回収率：93.1%）

なお、学部・学科ごとの回答状況は以下のとおりである。

文学部 69 名（社会学科：5、国語国文学科：5、英語・英文学科：17、史学科：9、地理学科：5、教育学科：24）

理学部 61 名（数学科：13、物理学科：20、化学科：18、生物学科：10）

家政学部 85 名（食物学科：23 名、被服学科：22、住居学科：23、生活経営学科：17）

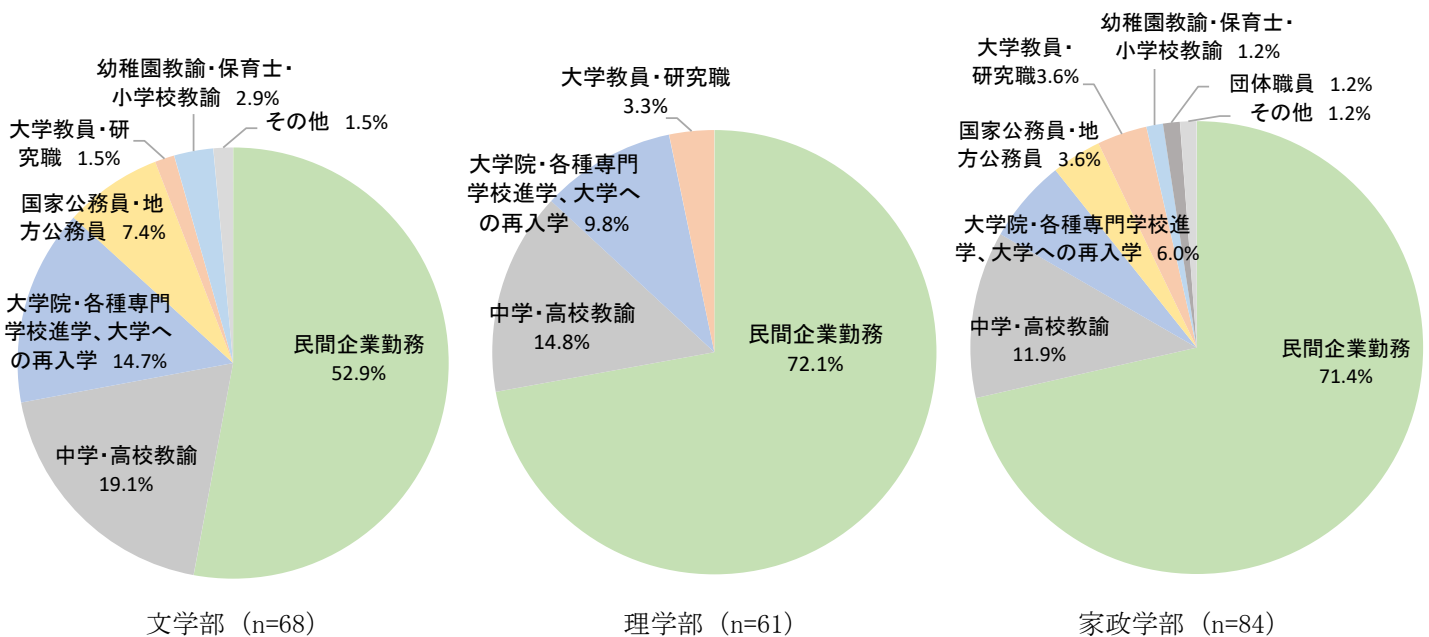
## 調査結果

### 卒業直後の進路

卒業直後の進路を学部ごとにグラフにしたところ、図 1 の結果となった。

文学部は中学・高校教諭、国家公務員・地方公務員の割合が他学部と比べて高かった。理学部・家政学部は共に民間企業の割合が高かったが、内訳としては、理学部は技術職・専門職、家政学部は企画・事務といった職種が多かった。

図 1 卒業直後の進路

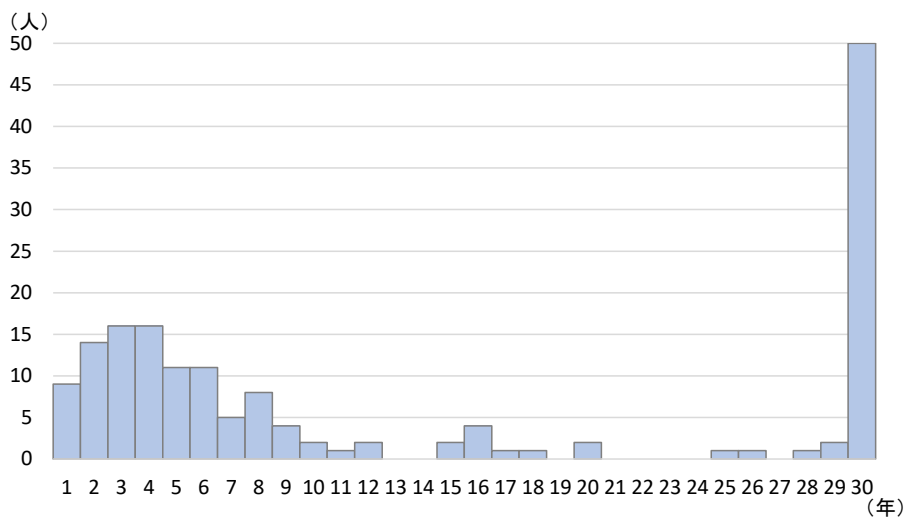


次に、卒業直後の就職先での勤続年数について、ヒストグラムを作成したところ、最初の職場で勤続している者が最も多かった（図2）。卒業直後の就職先を離れるタイミングとしては、卒業後3～4年が最も多く、6年を経過すると離職者数が下がることが明らかになった。

また、勤続30年の卒業生（50名）の職種として多いものは、民間企業（24名）、高校教諭（20名）、地方公務員（4名）であった。特に高校教諭、地方公務員は就職者の母数自体がそれぞれ30名、6名と少ないため、他の職業より勤続年数が長い傾向にあると考えられる。

対して6年以内の離職は民間企業が最も多く、就職者215名中離職者は60名であった。民間企業の中でも営業職は回答した6名全員が、研究職は10名中7名が6年以内に離職しており、流動性が高い傾向がある。

図2 勤続年数の度数分布 (N=164)

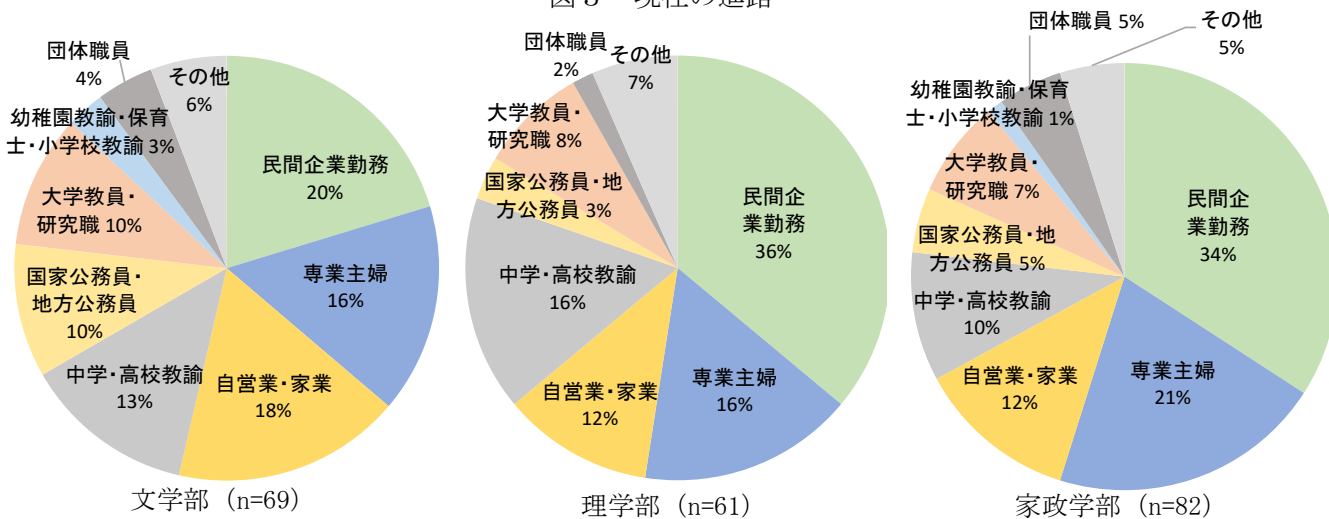


### 現在の進路

現在の進路について、学部ごとにグラフ化したものが図3である。全体として、卒業直後は民間企業に大きく偏っていた進路状況に多様性がでて、自営業・家業、専業主婦という選択肢が出てきている。また、雇用形態は、卒業直後には189名中184名が正規雇用であったのが、現在は145名中93名と減っている。

学部ごとにみると、文学部については、卒業直後と同様、民間企業の割合が他学部より低く、公務員の割合が高い。理学部は民間企業勤務の割合が比較的高いが、中学・高校教諭の割合も高くなっている。家政学部については、専業主婦の割合が他学部に比べて高い。

図3 現在の進路



## 卒業直後と現在の進路比較

卒業直後と現在の状況はどのように異なるのかを集計したところ、表1のようになった。民間企業に就職した者のうち、36.0%が卒業直後の進路にはなかった自営業・家業及び専業主婦へと変わっている。また、卒業後、大学院等へ進学及び再入学した者については、現在民間企業に勤務している者や、大学教員・研究員に従事している者が多かった。

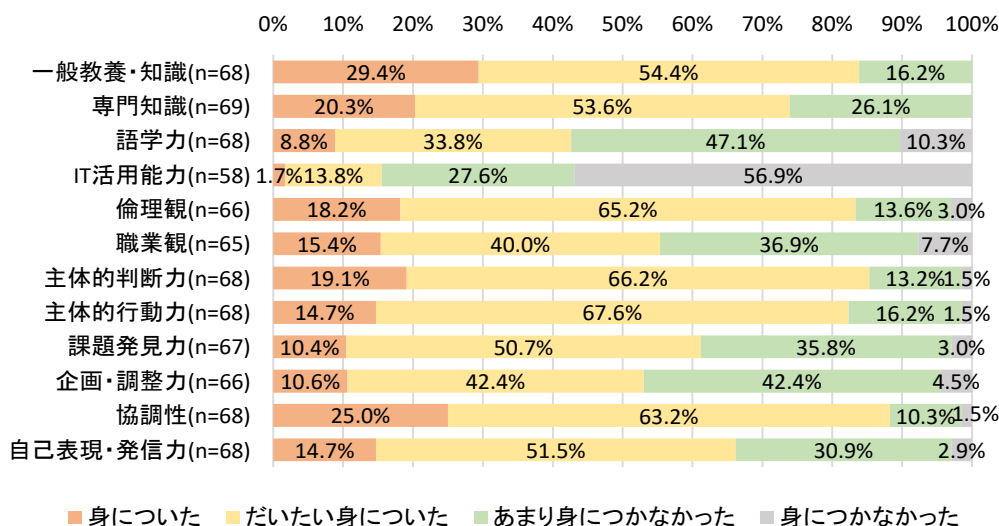
表1 卒業直後の進路と現在の進路のクロス集計

		卒業直後の進路								合計
		民間企業勤務	団体職員	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭	中学・高校教諭	大学教員・研究職	国家公務員・地方公務員	大学院・各種専門学校進学・大学への再入学	その他	
現在の進路	民間企業勤務	56 26.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	6 2.8%	0 0.0%	64 30.3%
	団体職員	6 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	8 3.8%
	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭	2 0.9%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.4%
	中学・高校教諭	4 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	20 9.5%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	0 0.0%	27 12.8%
	大学教員・研究職	6 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	4 1.9%	1 0.5%	5 2.4%	0 0.0%	18 8.5%
	国家公務員・地方公務員	7 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	5 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	13 6.2%
	自営業・家業	22 10.4%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	1 0.5%	28 13.3%
	専業主婦	28 13.3%	1 0.5%	0 0.0%	5 2.4%	1 0.5%	0 0.0%	3 1.4%	0 0.0%	38 18.0%
	その他	8 3.8%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	1 0.5%	12 5.7%
	合計	139 65.9%	1 0.5%	3 1.4%	31 14.7%	6 2.8%	8 3.8%	21 10.0%	2 0.9%	211 100.0%

## 大学で身についた能力・資質

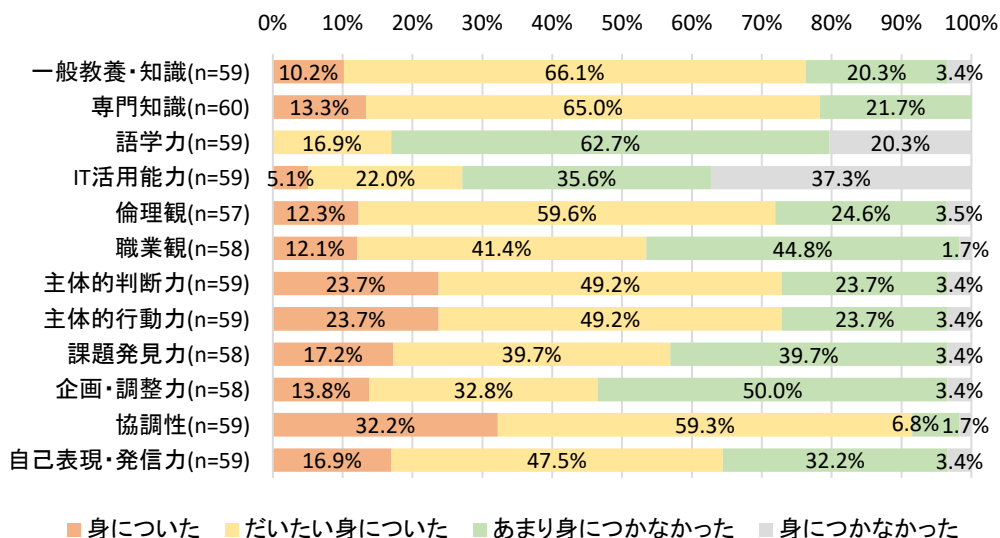
各能力・資質について、大学で身についたと思うかたずねたところ、文学部については図4の結果となった。「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かった項目は、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった。対して、語学力、IT活用能力はその割合が50%以下であった。

図4 文学部卒業生が在学中に身についた能力・資質



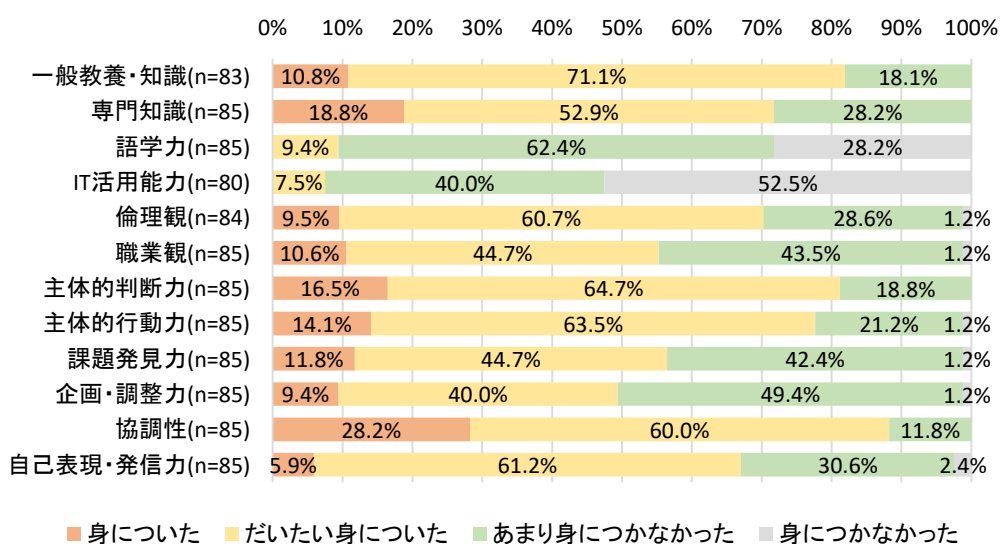
理学部も同様の分析をしたところ、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性について、「身についた」、「やや身についた」と回答した割合が高かった（図5）。対して、語学力、IT活用能力、企画・調整力はその割合が低かった。

図5 理学部卒業生が在学中に身についた能力・資質



家政学部については、「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かったのは、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった（図6）。対して割合が低いのは、語学力、IT活用能力、企画・調整力であった。

図6 家政学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

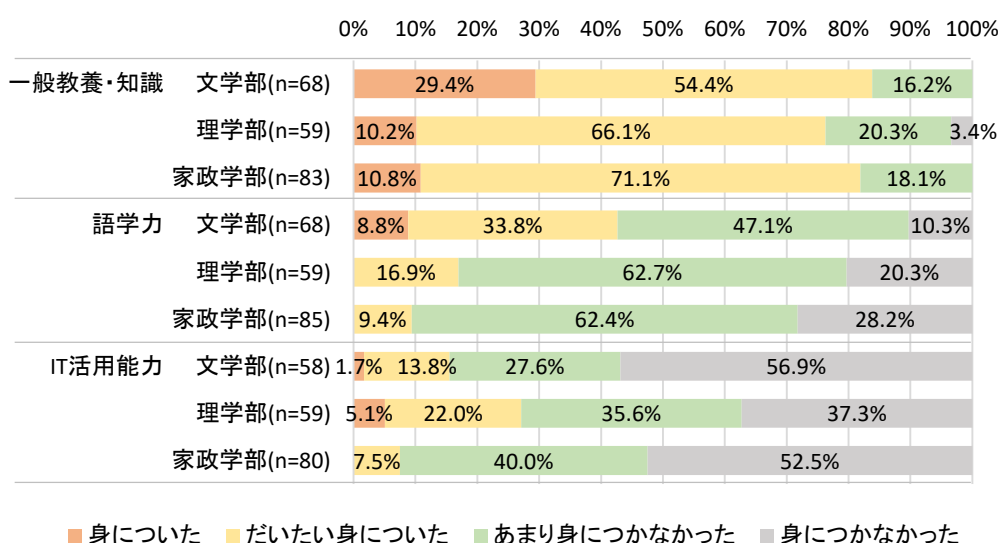


身についた能力・資質の学部間の平均値の差を比較するために分散分析<sup>※1</sup>をおこなった。その結果、一般教養・知識(F(2, 207)=4.112, p<.018)、語学力(F(2, 209)=15.819, p<.000)、IT活用能力(F(2, 194)=5.048, p<.007)に有意差がみられた。多重比較<sup>※2</sup>をおこなったところ、一般教養・知識は文学部と理学部に、語学力は文学部と理学部・家政学部に、IT活用能力は文学部・家政学部と理学部の間にそれぞれ有意差がみられることがわかった。

この三項目について、3学部の分布を比較したものが図7である。一般教養・知識及び語学力においては文学部が、IT活用能力については理学部が在籍中に能力が身についたと回答した者が多かった。語学力及びIT活用能力は各学部の専門性にも関連してくるといえる。

また、文学部は分属が遅いため、一般教養・知識が身についたと回答した割合が高かった可能性がある。

図7 卒業生が在籍中に身についた能力・資質の学部間比較  
(平均値に有意差があった項目を抜粋)



なお、これらの能力・資質の中で「在学時、身につける必要性を感じていなかったもの」についてもたずねたところ、挙げた項目ほとんどなかったが、唯一多かったものがIT活用能力で、215名中22名が身につける必要性を感じていなかったと回答した。続いて多かったのは語学力(8名)であった。対して、主体的行動力、主体的判断力は身につける必要性を感じていなかった者は0名という結果になった。

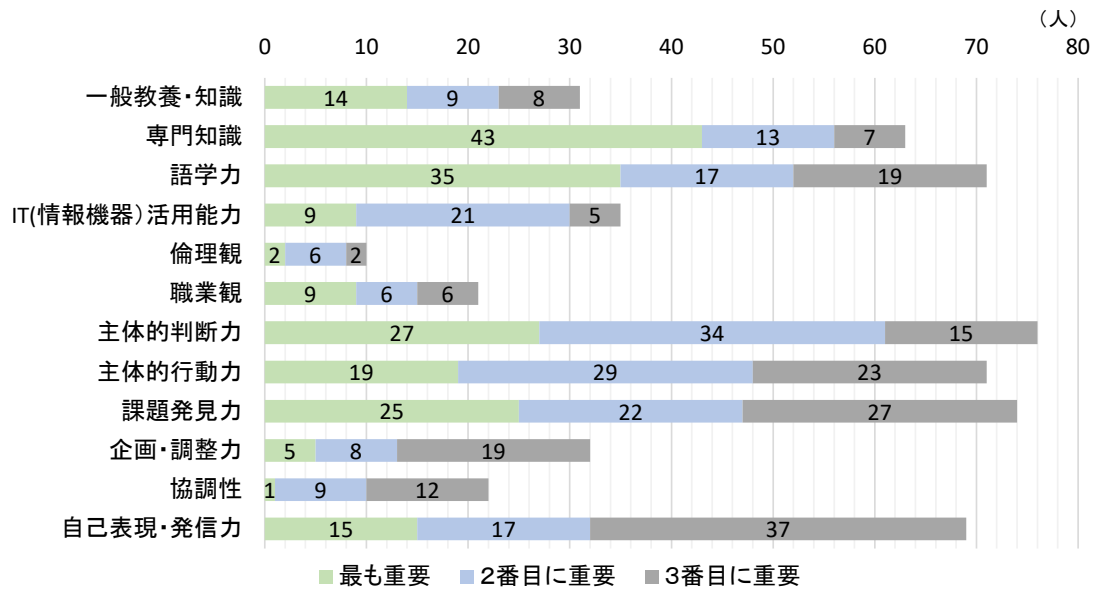
また、能力・資質のうち、今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるものを重要と考える順に3つまで回答してもらったところ、図8のような結果となった。

主体的判断力、課題発見力、語学力、主体的行動力といった項目が重要だと考えられており、対して倫理観、協調性、職業観といった項目は重要度が低かった。また、「最も重要」と考えられていた項目は専門知識や語学力であった。IT活用能力については、在学時身につける必要を感じていなかった能力としてあげられていたが、この設問においてもそこまで重要度が高く位置付けられておらず、在学時のイメージと卒業後の実態には大きな齟齬がなかったと考えられる。

※1 分散分析：3群以上からなるデータの母平均の差を検定する際に使用する分析方法。今回の場合、昭和62年卒業生において、在籍中に身についた各能力・資質の学部ごとの平均値に統計的に意味のある差(有意差)があるのかを調べるためおこなった。

※2 多重比較：各学部の平均に有意差があった際に、どの学部とどの学部間に有意差があるか調べるためおこなった。

図8 重要だと考える能力・資質 (N=204)

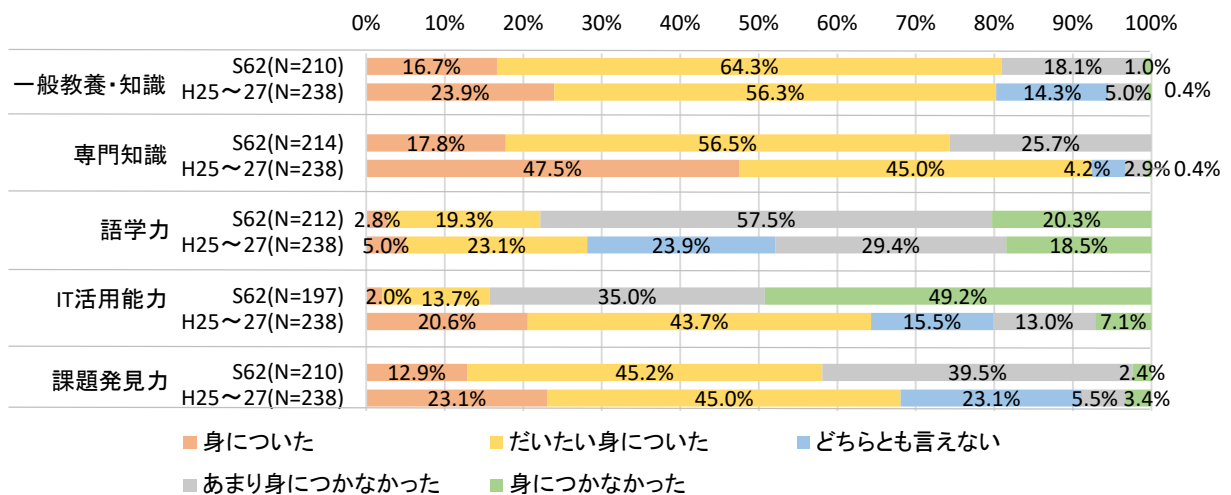


### 過去におこなったアンケートとの結果比較

平成 27 年 6～7 月に、本学同窓会員におこなった調査から、直近である平成 25～平成 27 年の卒業生を抽出し、在学中に身についた能力・資質において、対照できる質問項目の比較をおこなった（図 9）。

平成 25 年～平成 27 年の卒業生を対象とした調査は 5 件法、今回は 4 件法で調査をおこなっているため、一概に比較はできないが、今回の調査対象である、昭和 62 年卒業生と比較すると、一般教養・知識を除いて全体に「身についた」及び「だいたい身についた」と回答した者の割合が上昇している。特に上昇しているのは IT 活用能力と専門知識であった。

図9 在学中に身についた能力・資質の比較



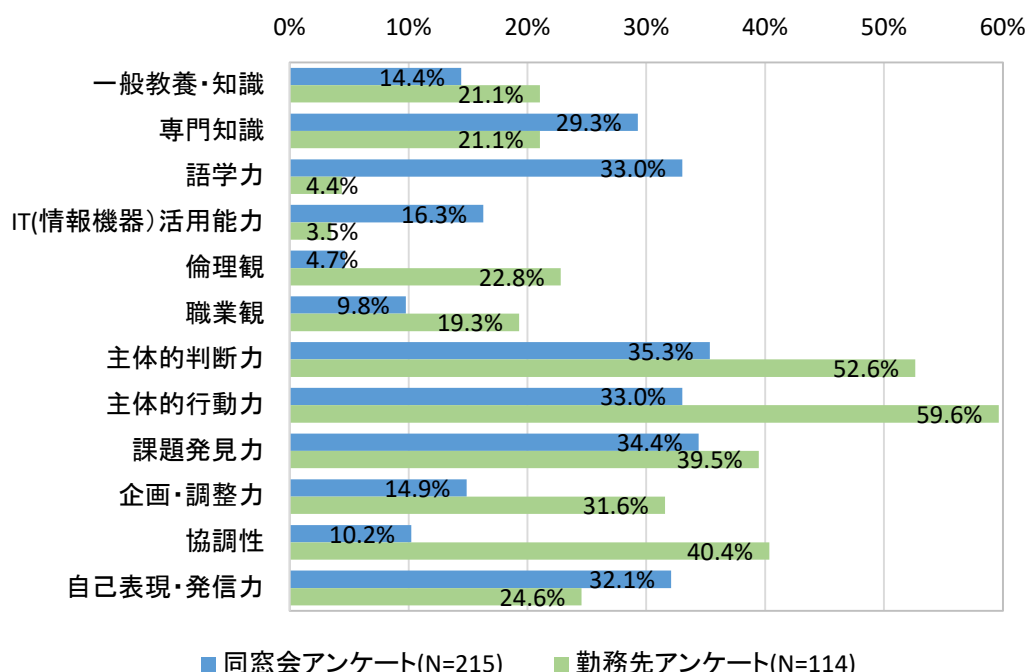
さらに、平成 27 年 12 月に、平成 16 年から平成 27 年に本学を卒業・修了した者の勤務先の上司を対象におこなった調査において、どのような能力・資質を重要と考えるか、今回と同様の項目でたずねていたため、比較をおこなった（図 10）。

今回の調査では 3 項目までの複数回答としていたが、勤務先を対象にしたアンケートでは、回答項目数に制限がなかったため、勤務先アンケートの方が回答率にばらつきがある。

勤務先を対象としたアンケートでは、今回の調査でも重要と回答した割合が多かった主体的判断力・主体的行動力、課題発見力に対して重要度が高く位置づけられていた。

極端に異なる結果が出たのは語学力と協調性で、語学力は卒業生から、協調性は企業から重要と捉えられていた。

図 10 重要だと考える能力・資質の比較



### 在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているもの

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについて自由記述で尋ねたところ、137 件の回答があった。同窓会で配った影響もあるのか、具体的な授業名や教員名を挙げて振り返る回答が多かった。

印象に残った授業は講義から実習まで授業の形式は多様であり、科目の種類としても教養から専門まで幅広くあがっていた。

## 大学で再び学ぶことについて

今後また大学で学びたいと思うか尋ねたところ、46.4%の89名が学びたいと思うと答えた。

またその理由としては、「学ぶことが楽しい」というような純粋に学問に取り組むことを希望する意見が最も多かった。続いて「現在の仕事の他分野の専門性を高めたい。」といった仕事に役立てるという動機が多く、9件あった。また、「退職後も、何らかの仕事を続けていきたいため、その準備として。」や、「農学、バイオを学び、自分で農業してみたい。」といった、将来のキャリアを見据えた意見もあった。

学びたい内容については、学生時代の専門分野に関連するものを学びたいという意見が6件あった。それ以外では心理学（6件）や歴史（5件）といった回答が多かった。

この設問で「学びたいと思う」及び「どちらともいえない」と回答している者をあわせると86.5%であり、大学での学び直しには需要が見込まれるが、実際に行動に移す際に障壁になっているものが何なのかを調査する必要がある。

## 現在在籍している学生に対するサポート

現在在籍している学生に対して、本学が行うと良いと思われるサポートについて尋ねたところ、68件の回答があった。これを分類すると、「就職、社会進出」、「国際」、「IT」に関するサポートへの意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

### 就職、社会進出

就職、社会進出に関するサポートへの意見が19件あった。就職活動へのサポート、OGとの交流、キャリア教育、社会人としてのマナーの指導などが挙げられていた。

OGとの交流の意見からは、在学生に自分の経験を話すことについて卒業生が肯定的に捉えていることがわかる。また、就職活動のサポートといっても、面接対策のような一時的な支援だけではなく、将来のキャリアを考える機会を与えるというような長い目で見た支援も重要だと捉えていることがわかった。

- ・卒業生の経験談を聞く機会（佐保会のネットワークを活用）
- ・社会人としての一般常識を、一応確認できる講座を少しだけもうけてほしい。
- ・何をしたいのかを見極めるためのサポート。外部から様々な人を招き、講演をする等。また、社会で人の意見をまとめるスキル等の知識を与える。

### 国際

国際教育に関する意見が14件あった。在学中に身に付けておくべき能力・資質の項目においても語学力は最も重要と回答している人が多かったため、必要と実感している卒業生が多いと考えられる。

- ・日本だけの視点ではなく、国際的な視点での教育をもっと取り入れた方がいいと思う。
- ・外国語教育を充実させてあげてください。これからは専攻に関わらず必要です。

### IT

IT関連のサポートに関する意見が5件あった。在学中に身に付けておくべき能力・資質の項目においてIT活用能力はあまり重視されていなかったが、「現在在籍している学生に対して」新たに必要な資質・能力として認識されている可能性がある。

- ・ITに対するリテラシーをあげ、一通り使いこなすことが出来るとよい。



## 大学に求めるもの

「今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか？」という設問に対し、61件の回答があった。

これを分類すると、「運営」、「情報発信」、「教育」、「卒業生へのサポート」への意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

### 運営

大学運営についての意見が15件あった。その中でも、大学の存続についての意見が6件、女子大学であることに言及する意見が5件あり、卒業生の中には女子大学としての存続を求めているものが少なからずいると考えられる。

- ・伝統あるこの大学の古き良き所を残しつつ、現代を生きる若者がおおいに学ぶことができる大学であってほしい。是非大学名を残してください。
- ・昨今の女子大が減っていることや、学生人数が少ないので、工夫をして存続してほしいと思います。

### 情報発信

大学の情報発信についての意見は10件あった。世間一般からの認知度やブランド力についての意見5件と、広報活動への意見5件にわけられた。

- ・奈良女子大の存在意義を社会にむけてアピールしてください。
- ・関東では知名度が低いので、もっと知らしめてほしい。
- ・新聞などの広告記事が目立って少ないように思います。何かお考えがあつてのことでしょうか。良質な広告（PR?）はもう少しされてもよいのではないのでしょうか。

### 教育

在学生への教育についての意見が9件あった。

- ・「日本」をしっかりと意識された教育は、今の時代より大切になってきていると思います。
- ・IT分野や教育学科の分野では、障害児教育への導入教育など。
- ・社会に出てリーダーシップを取れるような、クオリティの高い学生を育てて頂きたいです。

### 卒業生へのサポート

卒業生へのサポートについての意見が、18件あった。

なかでも、講座を開いて欲しい旨の意見が12件と最も多かった。これは、前の設問に「今後また、大学で学びたいと思いますか。」という設問があったことも原因していると思われる。内容としては、卒業生が全国にいるため、距離があっても受講できるシステムを希望するものや、転職、再就職に伴うもの、子育てについて、食についてと実生活に関わる内容を希望するものがあがった。他にも、卒業生向けの情報共有（3件）や、証明書類のネット申込（1件）があった。

- ・社会人講座などを都市部（大阪市内など）で開催されてはどうでしょう。
- ・講座の開設を希望します。地方から参加しやすくしてください。
- ・生涯教育のために、様々な講座があれば、転職、再就職に向けてもよい。
- ・遠方に住んでいるため、ホームページでの情報発信を今後も進めていってほしいと思います。

(白 紙)

# 奈良女子大学卒業生の振り返り調査

(平成 29 年 8 月 実施)

奈良女子大学では、女子高等師範学校の頃から百有余年の間にここ「奈良」の地で培った「女性リーダーの育成」の実績を活かし、次世代へつなぐ人材の養成と研究の展開に取り組んでいます。

特に人材の養成においては、卒業生が大学での「学び」をどのような形で個々の礎とし、社会生活の中で生かしているかということが、本学の教育のあり方を検討するにあたり重要な観点であり、今後、継続的に調査していきたいと考えております。

今現在、本学に在籍する学生が有意義な学生生活を送るため、ご協力の程よろしく願いいたします。

## ご記入上のお願い

- ・設問1-1、2～4まではあてはまる回答についている数字を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、その数字を○で囲み、( )の中に具体的な内容をご記入ください。
- ・○は各質問ひとつずつ付していただくよう、お願いします。
- ・お答えになりにくい質問には無理にご回答いただかなくてもかまいません。
- ・ご回答は統計処理され、決して個人が特定できることはございません。
- ・ご回答いただきました調査票は、各テーブルにございますアンケート回収袋に入れていただきますようお願いいたします。
- ・調査に関するご質問は、下記連絡先までお問い合わせください。

### 【本件担当】

奈良女子大学 学長調査戦略室

(事務担当)

総務・企画課大学改革推進係

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL 0742-20-3692

E-Mail [hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp](mailto:hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp)

1) 本学で在籍した学科を教えてください。

[学部] (該当するものに○)

文学部

11. 社会学科 12. 国語国文学科 13. 英語・英米文学科  
14. 史学科 15. 地理学科 16. 教育学科

理学部

21. 数学科 22. 物理学科 23. 化学科 24. 生物学科

家政学部

31. 食物学科 32. 被服学科 33. 住居学科 34. 生活経営学科

2) 上記で答えていただいた**奈良女子大学卒業直後の進路**について教えてください。(該当するものに○)

2-1 進路

01. 民間企業勤務( 011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 )  
02. 団体職員( 021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職 )  
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭  
07. 大学教員(研究分野: ) 08. 研究職(07以外)(研究分野: )  
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)  
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)  
-----  
11. 大学院進学( 大学 専攻) 12. 各種専門学校進学  
13. 大学への再入学 14. 留学 15. 専業主婦  
16. その他(具体的に )

《2-1で01~10を選ばれた方は、以下の2-2~2-4にもお答えください》

- 2-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ( )  
2-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ( )  
2-4 最初に就職したところでの勤続年数 ( )年

3) **現在の状況**について教えてください。(該当するものに○)

3-1 現在の状況

00. 変化無し  
01. 民間企業勤務( 011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 )  
02. 団体職員( 021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職 )  
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭  
07. 大学教員(研究分野: ) 08. 研究職(07以外)(研究分野: )  
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)  
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)  
-----  
11. 大学院在学( 大学 専攻) 12. 各種専門学校在学  
13. 大学への再入学 14. 留学中 15. 専業主婦  
16. その他(具体的に )

《3-1で1~10を選ばれた方は、以下の3-2~3-3にもお答えください》

- 3-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ( )  
3-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ( )

- 4) 下記の**能力・資質**について、**大学で身についた**と思われるかどうか、お伺いします。それぞれについてあてはまるものひとつに○をつけてください。  
また、下記の能力・資質のうち、**在学時、身につける必要性を感じていなかったもの**について、右端の（ ）に○をつけてください。

	身についた	だいたい身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった	必要性を感じなかった
1 一般教養・知識	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
2 専門知識	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
3 語学力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
4 IT (情報機器) 活用能力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
5 倫理観	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
6 職業観	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
7 主体的判断力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
8 主体的行動力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
9 課題発見力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
10 企画・調整力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
11 協調性	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
12 自己表現・発信力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )

- 5) 4) の**能力・資質**のうち、**今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるもの**を、重要と考える順に3つまで、**番号**でお答えください。

回答欄： 1. \_\_\_\_\_ 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_

- 6) 在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについてお答えください。

(「〇〇先生の△△の授業が面白かった」「〇〇のシステムがあって良かった」「□□が悪かった。もっと△△であれば良かったのに」等)

- 7) 今後また、大学で学びたいと思いますか。(該当するものに○) 思う場合は、その理由と、どのようなことを学びたいかお答えください。

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない

思う方はその理由と学びたいこと

8) 現在在籍している学生に対し、本学が行うと良いと思われるサポート等、ご意見がありましたらお聞かせください。

(「〇〇の教育を取り入れると良い」、「△△のシステムを充実させてあげて欲しい」等)

[ ]

9) 今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか?

(「卒業生に対し、〇〇の講座を開いて欲しい」、「△△のサービス提供をして欲しい」等)

[ ]

ご協力ありがとうございました。